

# 全国農業協同組合中央会会長賞受賞

愛知県豊橋市

やまもと やすいち  
山本保一

やまもと ちよ  
山本千代



山本夫妻は、豊橋市で露地ぶどう105aと露地かき50aのぶどう主体経営を行っている。ぶどうの経営面積は、地域の1戸あたりの平均経営面積35aの3倍あり、露地ぶどうで1haを越える面積を経営するのは山本夫妻のみである。ぶどうは全量農協へ出荷しており、「紫玉」、「巨峰」を中心に、「デラウェア」、「クイーンニーナ」を栽培し、労力分散と長期出荷を可能にしている。労働力は、夫妻とパート4名で、パートは5月上旬のぶどうの花づくり作業から11月のかきの収穫までの、農繁期を中心に雇用している。パートの労務環境管理は妻が主体となって行っている。

経営上の特徴として、平行整枝短梢せん定の導入や、パートとの役割分担による効率的な作業工程の確立、消費者ニーズや温暖な地域特性を考えた品種の選定が挙げられる。技術面では、夏期の高温による着色不良対策としての環状はく皮や無核化及び脱粒防止に向けたジベレリン1回処理の導入により地域特性を最大限に生かした早期収穫を可能にしている。

産地発展や後継者の育成についても積極的であり、昭和50年代には地域の「デラウェア」生産者をまとめ、先進地視察等、組織活動を開始した。昭和55年には「ぶどう部会」を設立し、その後も部会長として長年生産者をまとめあげてきた。また、多くの先進技術を積極的に導入し、その成果をオープンにして地域に広めている。夫妻合わせて160歳を超えても、常に新しい技術や知見を追い求める探究心や、やさしく親切な人柄、ぶどうやかきに対する熱い思いから多くの人に慕われている。省力化や作業分散、効率化をすすめ、高齢になっても可能な大規模果樹経営のモデルとして地域をけん引している。